## 社会性 海外事例特集(タイ)

### ASEAN地域の課題に挑む

経済成長により所得水準が向上し、食料需要が拡大しているASEAN諸国。都市化の進展により、農業従事者が不足しており、機械化のニーズ は年々上昇しています。

日本が長い年月をかけて成長した道のりも、日本の2倍・3倍のスピードで成長していくと思われ、今後さらにIoT農業の需要も高まる見込みで す。そのようななか、クボタグループのタイ法人(SIAM KUBOTA Corporation Co., Ltd. (以下SKC))がどのように課題に取り組んでいるのか、 ご紹介します。

#### 課題 1

タイやその周辺国の農家は、農業を人手に頼っていて、機械のことを知らない人も多い。 手作業での農業は、生産性も低くコストも高くついてしまう。

#### クボタのアクション





最先端のIoT農業や新農法、ノウハウを蓄積してシェア・提案 する、言わば"Experience Center"になることを目的に、 クボタファームを設立します。(2020年8月オープン予定) 機械を使えば生産性が向上し、コストも削減でき、収入が上 がることを伝えていきたいと考えています。





#### **KUBOTA FARM**

クボタファームは、近隣の農業大学や行政と連携しながら運営をしている施設です。 ファーム内は稲作用・畑作用・果樹用のほ場とハウス栽培のエリアに分かれており、それぞれの エリアで、IoT農業の最新技術や混栽の推進等、高収量を実現する農法の提案をしています。

#### 【KUBOTA FARMでできること】

- ・新農法の勉強
- ・最新の農業機械の体験
- ・自身の農場の困り事の相談 等



自動運転田植機の実演



キャッサバ植え付けインプルメント

## 課題 2

ASEANの主要6作物\*のすべての農作業に対応している機械がないため手作業になってしまう。

※ 米・ゴム・キャッサバ・サトウキビ・パーム油・トウモロコシ

## クボタのアクション



これまで日本で行っていた研究開発をタイで行うことで"On Your Side"を実現。 現地の方が求める機械を製造し、各地の農業生産力向上に貢献しています。

## Kubota Research & Development Asia Co., Ltd.

2016年にSKCの1部門として設立されたR&Dセンターを、2019年、ASEAN全域を ターゲットとするために分社化。

各地域のニーズに合わせた機械の研究開発に取り組んでいます。



タイと日本は業務スタイルが近くて働き やすいと感じています。一方で工夫も必要

だと感じるので、今後はより積極的に新し

いテクニック・ノウハウを取り入れていこ

うと思います。

## 働きやすい職場環境を実現

#### 現地女性リーダーたちに聞いた、『SKCで働いて感じること』



コンバインロータリー部門 アシスタントマネージャー Ratchada Phokha

社内の文化・制度ともに良く、上司も優 しい。そしていつもチャンスをくれる会社 だと思います。さまざまな局面にぶつかる ことがありますが、問題と向き合うこと、 さまざまな人と関わり多様な価値観に触 れることはとても面白いと感じています。



GOVERNANCE

調達部門 アシスタントマネージャー

# Pornthip Korkasemporn



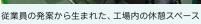
#### Happy Work Place活動

従業員の「現場に休憩所が欲しい・暑い・作業がし辛い」等の声を集めて専門の委員会で集約し、 都度改善に取り組んでいく活動です。

SKCの全従業員が参加しており、この活動を通じてさまざまなことが改善されています。

何か課題を見つけたら、この活動を活用するようにしています。 例えば過去には、治具を何度も使わなければならなかった作業を、 1度セットすれば作業し続けられるように改善しました。









トラクタ製造部門 Rossarin Boontima